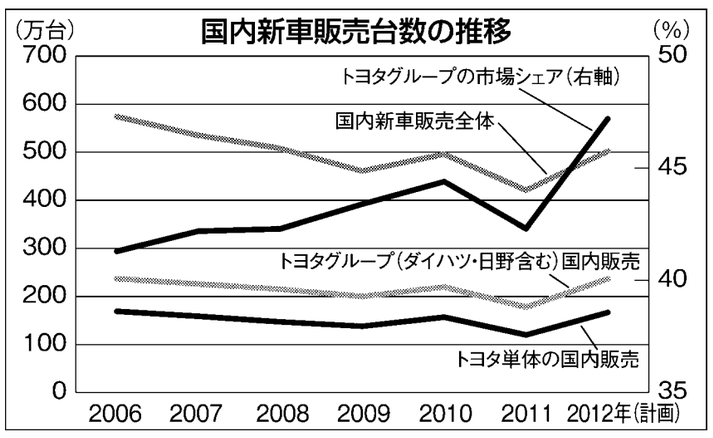
トヨタ自動車特集

国内自動車市場を活性化

人気車種を続々投入

長きにわたり漸減傾向が続く国内新車販売市場。「若者のクルマ離れ」や「自動車保有期間の長期化」など原因はさまざまに語られている。国内市場の縮小に歯止めをかけ、クルマの魅力を消費者に訴えかけることも、国内シェア40％以上を誇るトヨタ自動車にとっては大きな課題だ。豊田章男社長は5月、日本自動車工業会（自工会）の15代目会長に就任。公的な立場からも国内自動車市場の活性化に挑むことになった。



かっこいいクルマ

「メーカー各社が切磋琢磨しながら商品開発をし、魅力あるクルマを世に出していきたい。自工会としても、多くの方に魅力や楽しさを感じていただけるような取り組みを考えたい」。豊田章男社長は5月の自工会会長就任会見で力を込めて語った。

今、トヨタで魅力あるクルマを体現するのが4月発売のスポーツカー「86（ハチロク）」だろう。2005年に出資した富士重工業との共同開発車だ。

低重心な富士重独自の水平対向エンジンにトヨタの直噴技術を組み合わせ、世界でも唯一の後輪駆動（FR）スポーツカーとして仕上げた。2月の発表記者会見で豊田社長は「若者がクルマから離れたのではなく、自動車メーカーが若者から離れていた。86はメーカーとして若者に近づく決意表明」と説明した。

開発では、デザインの評価にあたって役員などによる通常の社内評価制度を使わず、社外のスポーツカーオーナーの意見を取り入れる形に変更。豊田社長みずから何度もテストドライブのハンドルを握るなど、いわば〝社長肝いり〟のクルマとして世に出された。

販売にも独特な手法を取り入れた。全国の系列販売会社283社に1店舗ずつ専門の販売店「エリア86」を設置。86本体をはじめ、チューニング用の用品類や関連グッズを充実させた。

一定の世代の人なら幼いころ、誰しもが一度はあこがれた「かっこいいクルマ」。そして実際に手元に置き「いじる楽しみ」。原点に立ち戻ってクルマの魅力を訴える取り組みで、トヨタはもう一度若者の心をつかみたいとしている。

▶スポーツカー「86」

▲エリア86では、車を楽しむための用品類を取りそろえた

自動車税見直しを

メーカーが魅力あるクルマ作りを進める一方で、クローズアップされるのが車体課税の問題だ。販売を下支えする環境をいかに整えるかという点で車業界全体にとって重大なテーマとなっている。

購入時に購入価格の5％が課せられる自動車取得税と、車検のたびごとに重量に応じて課せられる自動車重量税。日本は諸外国と比べても自動車の取得・保有に伴う税負担が重い。買い替え需要や新規取得を抑える要因になっているとして、自動車業界はこの2税の撤廃を強く求めてきた。

加えて、14年に5％から8％へ、15年にはさらに10％引き上げる改正消費税法が8月に成立。このまま自動車2税が据え置かれれば消費者の購入意欲はますます薄れ、国内自動車市場にとっては大きなマイナス要因になる。豊田自工会会長は7月の定例記者会見で「クルマには9種類8兆円の税金が課せられている。抜本的な車体課税の見直しに向けタイムリーに取り組んで欲しい」と改めて訴えた。

折から13年度の税制改正に向けて各省庁から要望が出され、議論が始まった。焦点は消費増税にともない税の体系をどう見直すか。民主党の藤井裕久税制調査会会長からは14年の車体課税抜本見直し、特に自動車取得税の廃止も念頭に議論を進めるという発言も出ている。業界全体を挙げて問題組んでいる税制問題は大きな正念場を迎えている。

自工会は車体課税の見直しを求めてきた（11年11月に開いた共同記者会見）

7月に発売した新型ポルテ㊧とスペイド

エコカー補助金

一方、足元ではエコカー補助金が終了。軽自動車やハイブリッド車（HV）の販売増をうながし「効果は間違いなくあった」（豊田自工会会長）とされるエコカー補助金。しかし終了後に反動減の谷がどれくらい深くなるかは誰にも読めない。トヨタ系列の販売現場からは「今回の補助金では軽自動車ほどの恩恵はなかった。その分、反動減も少ないのではないだろうか」との声もある。

トヨタはHV「プリウス」や小型HV「アクア」を筆頭に、全面改良間もない小型車「カローラ」やミニバン「ポルテ」「スペイド」などの人気車種を投入。反動減をカバーしようとしている。

しかし、国内の競合メーカーからも、ミニバンやHVなど主力車種の意欲的な商品投入が相次いでいる。12年度下半期に向けては、落ち込む需要を奪い合う販売競争が激化することは間違いない。

また、補助金終了から車体課税廃止までには、少なくとも1年半程度のタイムラグが生じるのは確実。国内の消費者にとって、新車購入を待つのがいいのか、それとも急いだ方がいいのかの判断は分かれそう。自動車メーカーからしても、どのようなタイミングで新車を投入すれば効率的に消費者ニーズをすくいとれるかを測るのは難しい。

ともあれ、豊田社長の常々口にする「ワクワクドキドキするような」魅力あるクルマづくり、海外メーカーに負けないHVなどの環境対応車づくりを地道に進めることの重要さには変わりはない。トヨタの持つ市場を掘り起こす力には自動車業界全体からも大きな期待がかかっているといえそうだ。

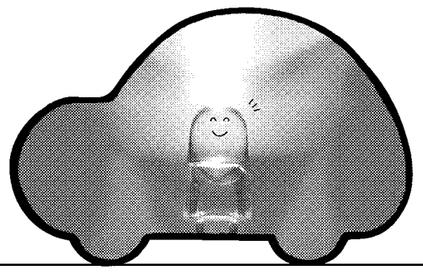
熱く、強く、まっすぐに。

愛知製鋼株式会社
〒476-8666 愛知県東海市荒尾町ワノ割1番地
ホームページアドレス http://www.aichi-steel.co.jp/

豊田合成株式会社

地球環境のために、
自動車と光の未来を考える。
ー海外17カ国/地域に46拠点を展開ー

TOYODA GOSEI



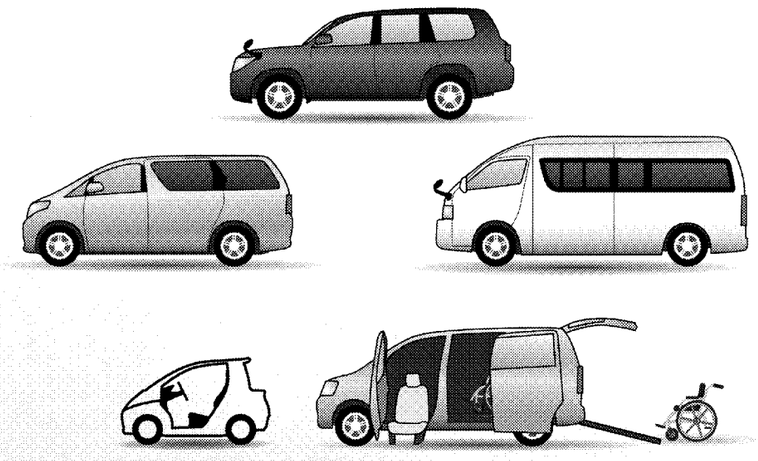
●内外装部品（インパネモジュール、ラジエータグリル 他）
●オートモーティブシーリング製品（ウェザストリップ、ガラスラン 他）
●機能部品（燃料タンクモジュール構成部品、ホース類 他）
●セーフティシステム製品（ハンドル、各種エアバッグ 他）
●オプトエレクトロニクス製品（青色・緑色・白色LEDランプ・チップ 他）
●特機製品（通信機器部品、住宅設備製品、産業車輌部品 他）

本社／〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地
Tel:052-400-1055 Fax:052-409-7491
http://www.toyoda-gosei.co.jp/

ミニバン、商用車、SUVの
完成車両メーカーをめざして。

トヨタ車体はミニバン、商用車、SUVの企画・開発から生産までを手がけ、
時代をリードし、クルマのある豊かな生活の実現に努めています。

これまでも、これからも、地球環境への対応はもちろん、豊かなクルマの未来、人の未来へ
私たちは挑戦を続けています。



トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY
トヨタ車体株式会社
〒448-8666 愛知県刈谷市一里山町金山100番地
www.toyota-body.co.jp